図1-1；けやき通りから見たアイレベルイメージ

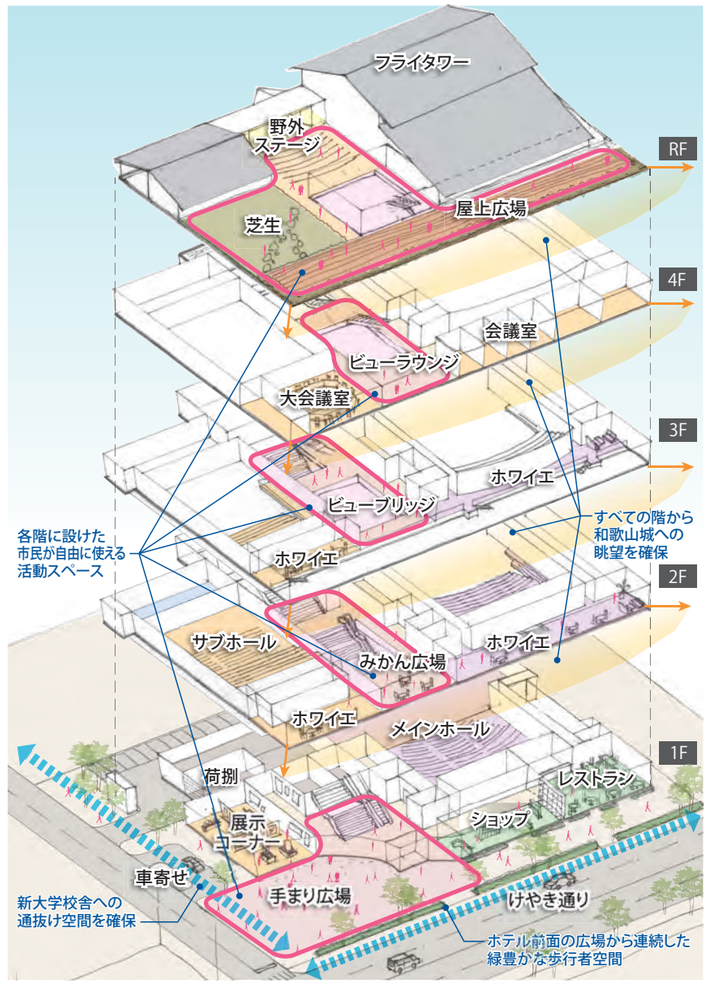


図1-2；施設の全体構成イメージ

1. 出会いと交流の場づくり

新市民会館の基本理念に示されている、3つの拠点イメージと7つの機能を踏まえ、出会いと交流を大事にした「**人を集め、つなぎ、育てる施設づくり**」をおこないます。

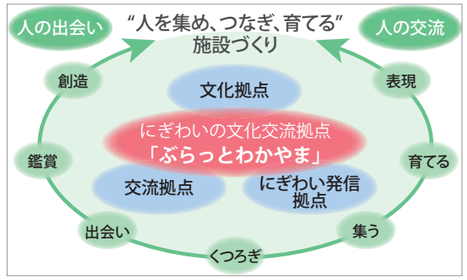


図1-3；基本理念を踏まえた施設づくり

2. まちの回遊性を向上

南・西・東面に**歩行者空間**を設け、まちの回遊性を向上させます。西側は和歌山城側から大学側へと続く楽しい歩行者スペースをつくり、橋を越えて**ぶらくり丁方面まで歩くきっかけ**をつくります。

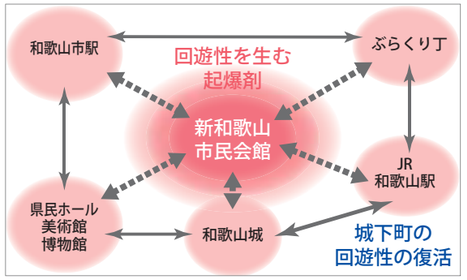


図1-4；都市の回遊性を高める歩行者空間

3. 立体的な滞在型施設

市民がいつでも自由に使える**滞在型施設**とすることで**にぎわいの文化交流拠点**を実現します。各階に屋内の広場空間を設け、立体的な**市民の活動スペース**を確保して、吹抜を通じて互いに刺激しあうダイナミックな文化芸術創造拠点をつくります。

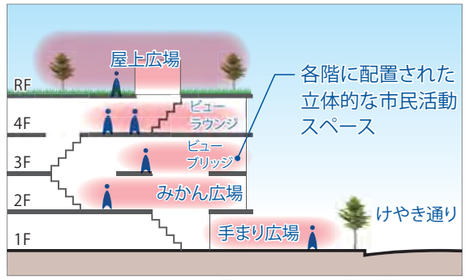


図1-5；立体的な市民の活動スペース

4. 城下町の発展と観光資源の充実

和歌山城の**城下町**としての歴史的景観に配慮し、和歌山城と調和した**観光資源**となるシンボル施設を目指します。にぎわいのある風景が天守閣からも見えるよう広場や屋上空間を計画します。

図1-6；和歌山城天守閣からの眺望イメージ

5. 多世代交流・国際交流への配慮

様々な利用者が来場し、活き活きとした活動ができるよう、子ども連れやお年寄り、障がい者、外国人などだれもが使いやすいユニバーサルデザインを徹底した施設づくりとします。

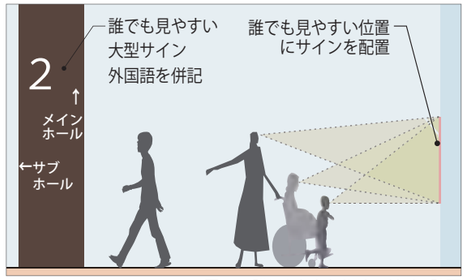


図1-7；誰にもわかりやすいサイン計画

城下町の活性化と魅力ある街区の形成に向けた計画

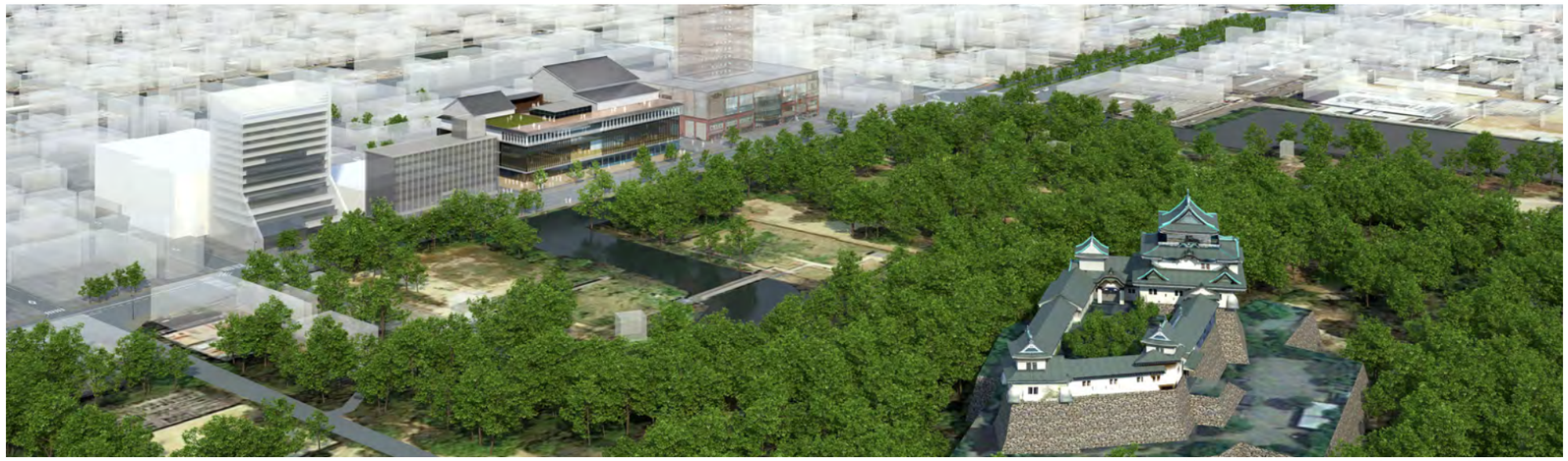


図2-1;けやき通り・和歌山城と調和し、美しい景観を形成する新市民会館のイメージ

歴史ある城下町の活性化の拠点

和歌山城との調和と都市軸の結節点としてのにぎわい拠点づくり

- 和歌山のシンボルであり、市民のよりどころである和歌山城への眺望や動線を重視した計画とします。
- 周辺街区の都市軸に調和した配置計画とします。
- 市民会館の集客と、隣接するホテル・商業施設や教育施設（予定）との相乗効果により、まちの活性化につながる魅力的でにぎわいのある街区をつくります。
- 観光や市内施設利用の起点や中継地点として、情報や休憩スペースの提供などを行います。

図2-2;けやき通り

図2-3;西側道路

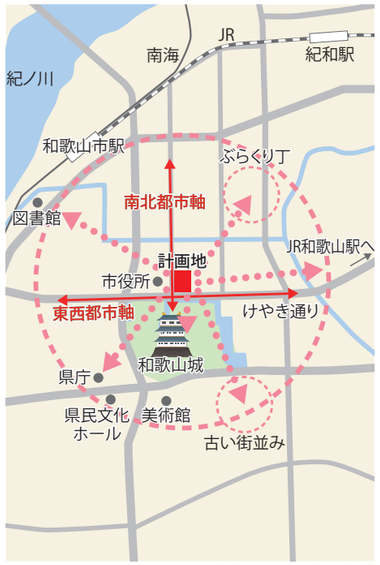
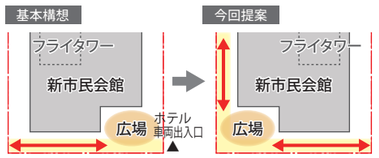


図2-4;新たな拠点となる新市民会館

周辺歩行者動線の回遊性を創出

- 西側歩道部を広くとり豊かな歩行者空間として、和歌城側から外堀の橋を越えてぶらくり丁へ至る歩行のきっかけをつくる計画とします。
- 和歌山城や新市民会館での祭などのイベント時、周辺市域の人の流れを考慮し、けやき通りと西側歩道の結節点となる位置に広場を設けます。



△	西の丸広場との連携	○
×	歩行者の安全性	○
×	北側への人の流れの創出	○
×	大ホールフライタワーの配置	○

図2-5;配置計画イメージ

周辺施設との連携を考慮した配置・動線計画

商業施設と連続したにぎわいと周辺駐車場との連携

- 主出入口をけやき通り側に設け、**車動線は西側道路**として明確に動線を分けた計画とします。
- 商業施設と連続した集客や通りに向けたにぎわいづくりを考慮し、**ショップとレストランは1階南側に配置**します。
- 近隣の公共や民間の駐車場や隣接するホテル・大学との連携に配慮して、建物の西側及び東側にそれぞれ歩行者空間を設けます。

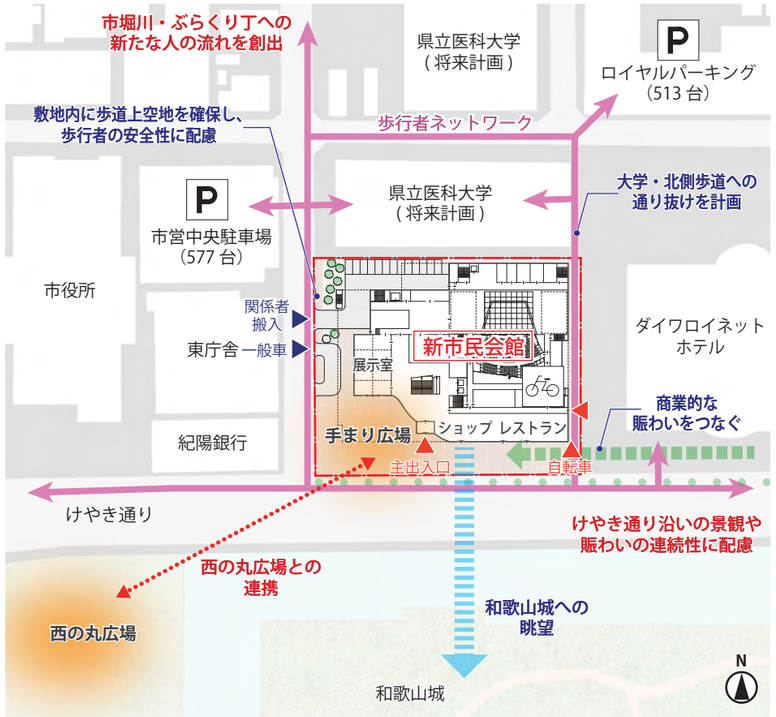


図2-6;配置計画イメージ

いつも賑わっている活き活きとした施設

ダイナミックな空間構成による賑わいが絶えない施設づくり

- 和歌山城への眺望と道路側の賑わい創出を配慮し、南側に利用者の姿が見える配置計画とします。
- 1階南側にカフェとショップを配置し直接道路から出入りができる計画とします。
- 2階～3階南側は2つのホールのホワイエを設け、間にカフェを併設した共通ロビーを設けます。催し物がないときはホワイエを和歌山城を望むカフェとして利用可能な計画とします。
- 展示室を西側道路および広場に面して配置し、日常の文化芸術活動が外からうかがえる計画とします。展示室は南側の広場に向けて開いてステージとするなど多目的に使用できる計画とします。

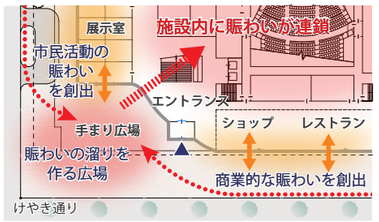


図2-7;立寄りたくなる施設構成

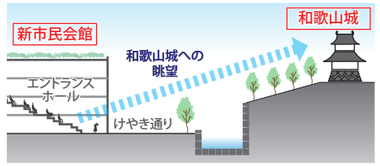


図2-8;和歌山城を望む4層吹抜のエントランス空間

図2-9;大階段利用イメージ

図2-10;けやき通りのにぎわい立面イメージ

屋上広場の提案

大勢の利用と和歌山城とのつながりを重視した計画

- 魅力的な施設づくりとして、まとまった広い面積が確保できる屋上にも広場を設け、和歌山城と対になった緑とにぎわいを演出することにより、観光資源の1つとする計画とします。花火大会の観覧スポットや夏場のビアガーデンなど、集客を生み、民間活用時の採算性を高めます。

図2-11;屋上広場の活用

回遊性・バリアフリー・集客性を考慮した動線計画

市民が主役の交流・創造・鑑賞の場

まちにひらき、お城を望む

まちから人々を招き入れにぎわう施設

- 広場は集客性を考慮し、エントランス内部まで連続した床・天井仕上とすることで内部まで人を招き入れる空間とします。
- 木ルーバーや及び紀州手まりのモチーフ等を用い、市民が親しみを持つことのできるデザインとします。

図3-1;展示室とつながり賑わいが生まれる広場

各施設をつなぐ屋内の立体広場

吹き抜けにより視覚的につながるフロア計画

- 中央に４層の吹抜を設け、広い階段とエスカレーターやエレベーターにより各施設へと効率的に誘導します。
- 各階に滞留スペースを設け、それらをつなぐことで、楽しく回遊できる屋内の立体広場を実現します。

図3-2;木の温かみに包まれるエントランスホール

すべての人にひらかれたホール

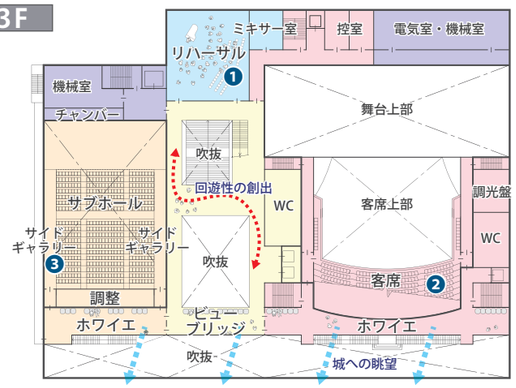
障害の有無にかかわらず楽しめるホール

- 大ホールはバルコニー席を設けて、舞台と客席が近い、臨場感あふれる空間とし、車イス席や多目的室（親子室）、難聴者用設備などを設けて、だれもが舞台芸術を楽しめる施設とします。

図3-3;市民が利用しやすいサブホール

図3-4;舞台と一体となり、臨場感あふれるメインホール

3F

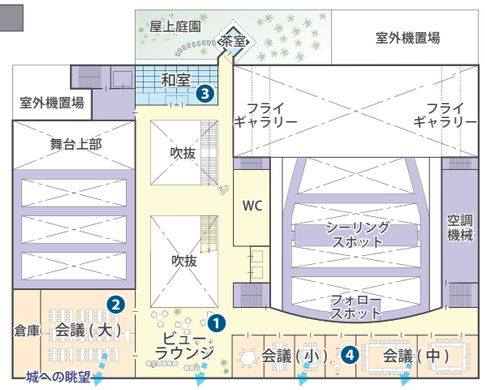


❶**リハーサル室**
第３のホールとして計画。レコーディングスタジオとしても使用可能。

❷**大ホール２階席**
約250席として計画。サイドバルコニー席を持ち一体感を演出。

❸**サブホール２階席**
サイドギャラリーにより様々な演出が可能。

4F



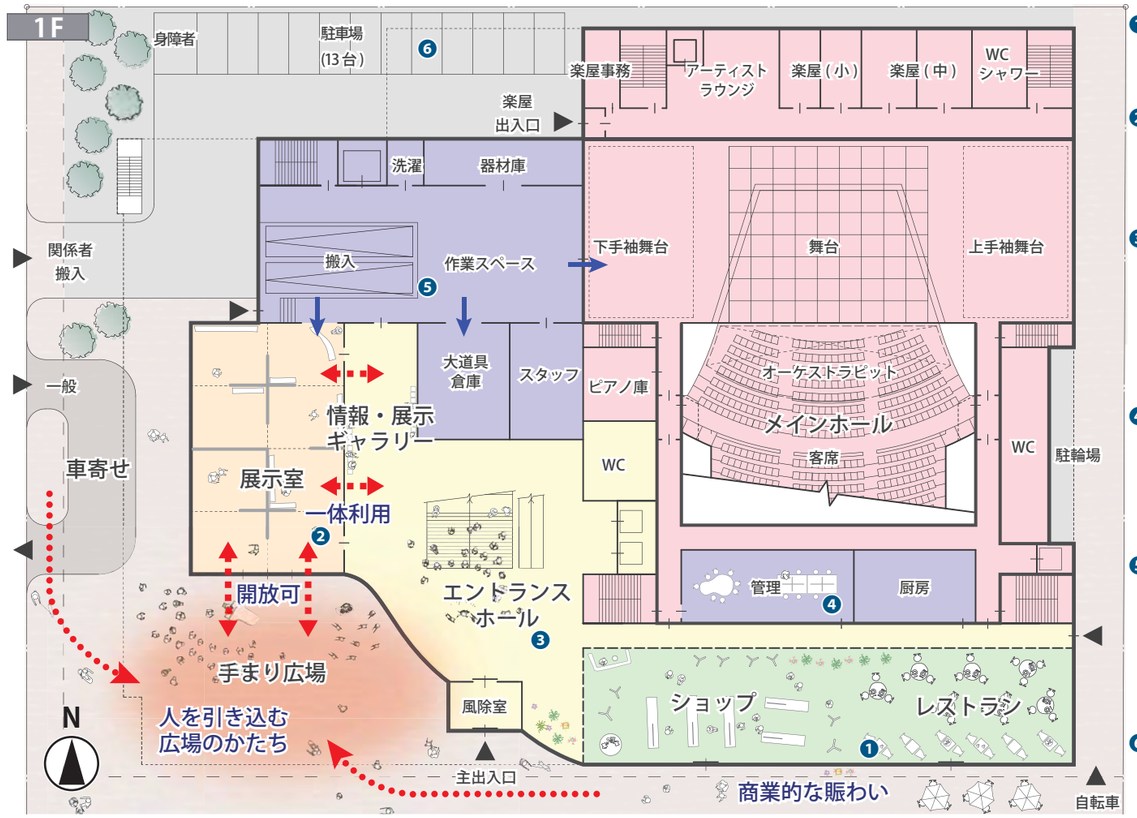
❶**ロビー（展望ラウンジ）**
４層吹き抜けに面して開放的なお城を望むラウンジを設置。

❷**大会議室**
２室に分割利用可能。

❸**和室**
２室に分割利用可能。

❹**会議室**
全室和歌山城に向けて配置。

1F



❶**ショップ・レストラン**
道路に面してにぎわいを創出。

❷**展示室**
エントランスや広場との一体的利用も可能。

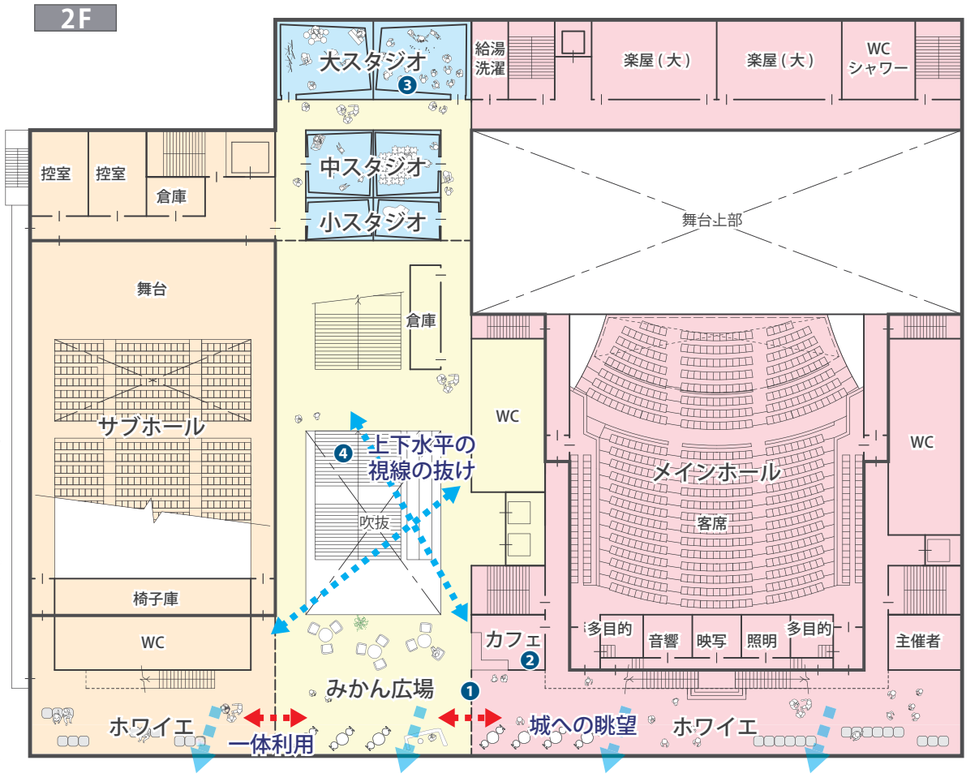
❸**エントランスホール**
４層吹抜け。ロビーコンサートを考慮。エスカレーターで２階へ移動可能。

❹**管理室**
エントランスが見え、舞台にもアクセスしやすい位置に配置。

❺**搬入・作業スペース**
11t車2台分の荷捌きスペースと大道具等の組み立て可能な作業スペースを配置。

❻**駐車場**
敷地内に出演者用駐車場を配置。

2F



❶**共通ロビー・ホワイエ**
和歌山城が見える開放的な空間。

❷**カフェ**
大ホールのドリンクコーナーとして、また催物がないときは、共通ロビー・ホワイエをカフェとしても利用可能。

❸**スタジオ**
大・中・小スタジオを配置。大ホールやサブホールの楽屋としても利用可能。

❹**大階段**
吹抜を上下につなぐ視認性の良い計画。エントランスホールコンサートなどのイベント時には客席として利用。

必要機能を確保しつつコストを低減する工夫について

合理的な施設計画により躯体コストを削減

地下のない経済的な施設

- 地下水位が高い敷地特性を踏まえ、本施設には地下階を計画せず、掘削土量を最小限に抑えることで、コスト削減を図ります。
- 整形でコンパクトな建物形状として躯体や外壁、屋根面積を減らした経済的な計画とします。
- 基本構造をホールの遮音性に優れたRC造とし、大スパンとなる部分は梁をS造とした合理的な構造計画とします。
- トラスの下弦材を天井の下地鉄骨と兼用することで、合理的な架構とし天井の落下を防止します。
- 杭は液状化対策も考慮した粘り強いSC杭工法（外殻鋼付コンクリート杭）を採用し、杭本数の低減を図ります。
- 内装木パネルは和歌山県産材を用いたクロス工でも施工できる不燃天然木シートを採用し省コスト化を図ります。

様々な創エネ・省エネ手法によりランニングコストを低減

気候特性・施設特性に応じた省力・省コストな設備計画

- 和歌山市ならではの豊かな日照時間を最大限に活用した創エネ・省エネ計画とします。太陽光発電、太陽熱利用、自然採光になど様々な自然エネルギーを活用し、ランニングコストを低減します。
- 比較的稼働率の低いホール系統はデマンド抑制のため都市ガス熱源とし、他系統は使い勝手がよくCO_2発生量の少ない電気熱源として基本料金を抑えます。自然エネルギーをうまく組み合わせ、コストと環境に配慮したベストミックス熱源計画とします。
- ホール屋根は置屋根として日射負荷を削減します。また、ホワイエの余剰空気をホールを通して排気することでホール利用前の冷暖房運転コストを大幅に低減します。

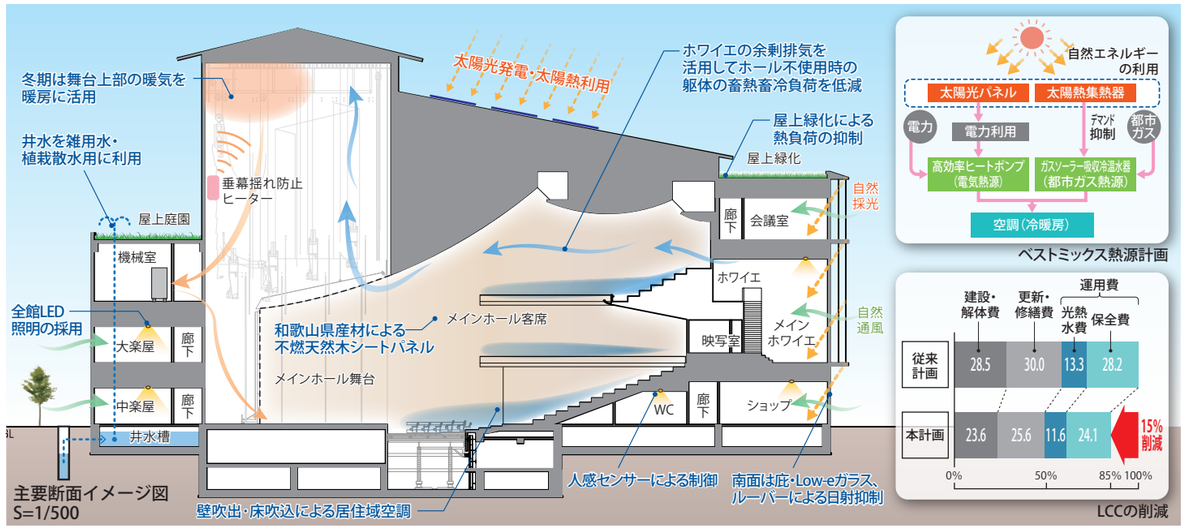


図4-1;様々な環境低減手法を用いた施設イメージ

経済的に良質な音響空間・残響時間・音場を実現

ローコストで良質な音響空間を確保

- 演劇や講演会形式からコンサート形式まで、各々の演目に応じて、音楽に適した豊かな長い響きから、講演に適した明瞭で短い響きまでを実現します。
- 豊かな残響が得られるように必要なホールの気積を確保し、より安価な方法として残響可変カーテンにより残響時間をコントロールします。

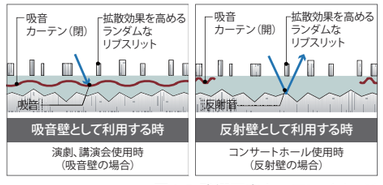


図4-2;残響可変カーテンイメージ

互いの伝搬音に配慮した配置

- 大ホールとサブホールやリハーサル室は一定の距離をおいて廊下を挟んだ配置とすることにより互いの振動と伝搬音を防ぎ、コストのかかる防振や浮き構造を極力避ける計画とします。

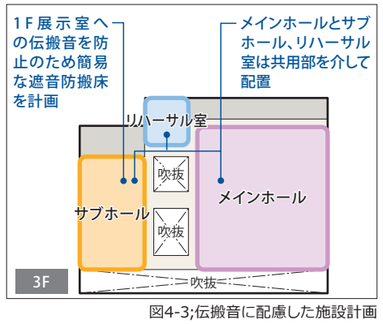


図4-3;伝搬音に配慮した施設計画

臨場感ある響きを実現

- 大ホールは最適な音環境を実現するために、音響反射板設置時に舞台と客席が一体となるよう形状を設定し、良好な反射音が客席に届く計画とします。
- 演奏者に近い壁面の仕上げは柔らかな反射と低音域から高音域の拡散が得られるように異なる大きさの凹凸形状とすることで良質な音環境を実現します。

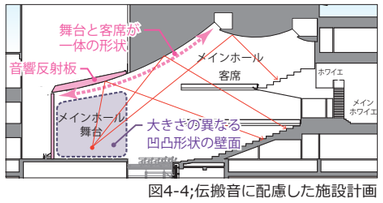


図4-4;伝搬音に配慮した施設計画

計画地にふさわしい周辺環境と調和した景観デザインの工夫について

図4-5;和歌山城側から見た鳥瞰イメージ

城下町の風情を先導する景観デザイン

- 本地域は和歌山城の城下町として発展した歴史があり、和歌山城の歴史的価値を考慮した城下町としての景観づくりが重要と考えます。和歌山城と対峙し自らを自己主張しすぎることなく、周囲と調和した形態で和歌山城に調和する色彩計画とします。

周辺建物と調和した建物形状

- 隣接するホテルや銀行とボリューム感を合わせることで形態的な調和を図ります。
- 舞台上部は和歌山城からの見え方や城下町全体の景観を考慮し、屋根をのせた形状とすることで、街並との調和を図ります。

和歌山城を意識した外装計画

- 大きな壁面は和歌山城の城壁との調和を考慮し、おちついた色彩とします。水平ラインの強調や格子、庇など歴史的まちなみの要素を取り入れた計画とします。
- 屋根面は和歌山城からの眺望や城下町の風情を考慮し、瓦又は金属屋根による瓦調の仕上とします。

その他の提案について

災害時に確実に市民を守る安全・安心な施設計画

人々が安心できる災害に強い市民会館

- 不特定多数が集まる施設として、高い耐震性能を確保し、大地震においても、人命の安全はもとより、震災後の早期復旧が可能な計画とします。
- 非常用発電設備、受水槽、非常用排水槽を備え、井水の雑用水利用や太陽光発電など自然エネルギーも活用しながら、災害時でも電気や換気、トイレ、シャワー室が利用できる計画とします。

周辺施設と連携し、市民を守る市民会館

- 災害時にも周辺施設である市役所との連携（支援物資の一時保管・供給）や済生会和歌山病院との連携（物資の供給・健常者の一時避難受入）を重視した計画とします。
- 広場、エントランス、展示コーナー、ホワイエなどを一時避難スペースとして活用、大ホール、サブホールは支援物資置場とし、荷捌きを活用して仕分けのしやすい計画とします。
- 来館者とサービス動線を明快に分けた計画とすることで、避難者と物資の搬出入動線が交錯せず、避難生活や支援活動、物資の搬入が行いやすい計画とします。

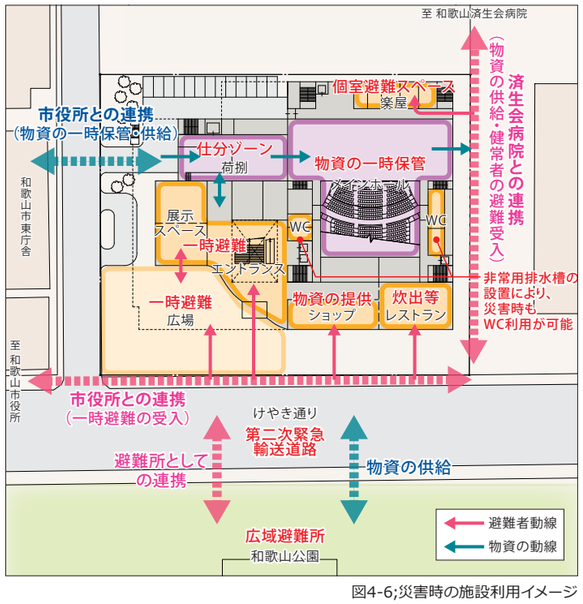


図4-6;災害時の施設利用イメージ

市民の使いやすさと長期的な視野での管理運営計画

ソフトとハードがバランスした基本計画

基本計画策定の方針

- 新市民会館の基本計画策定に当たっては、本施設が担う「使命や活動」といったソフトと、備えるべき「機能や設備」といったハードの両面のバランスの取れた検討が必要です。その成果として適切な「性能や品質」といった設計条件に整えていく必要があります。
- 基本計画策定時は、「管理・運営（ソフト）計画」と「施設・整備（ハード）計画の２つのフローで検討を進めます。

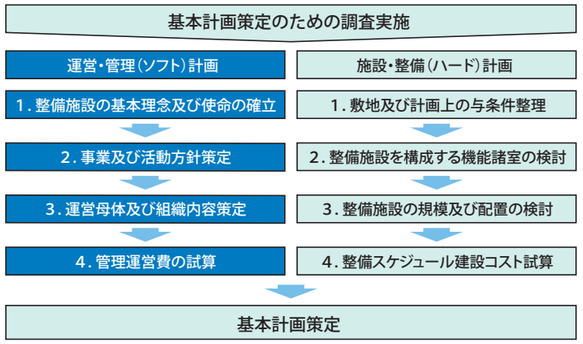


図5-1;基本計画策定フロー

管理・運営（ソフト）計画の立案

1. 整備施設の基本理念及び使命の確立

- 整備施設の目的や使命を検討し、基本理念及び使命について確立します。

①上位計画の整理（総合計画、教育振興基本計画、文化芸術振興条例、文化芸術振興基本法、劇場法、等）
②整備施設が担う役割、使命の確立

2. 事業及び活動方針策定

- 整備施設が担う役割、使命を実現するために行う事業及び活動方針を策定します。

①事業及び活動方針策定
②想定される具体的事業試案の策定

3. 運営母体及び組織内容策定

- 事業及び活動を実現するために必要な運営母体及び運営組織方針を策定します。

①直営、指定管理者等の運営母体の検討と方針策定
②運営組織に求められる専門的な職能と業務所掌

4. 管理運営費の試算

- 事業計画及び組織計画を経て、事業費及び人件費を顕在化させます。加えて延べ床面積を参考に管理運営経費を算出します。

①施設維持管理経費方針の検討
②事業費、人件費、管理運営費の試算

市民ニーズへの対応

利用状況調査・ワークショップ・アンケート等の実施

- 基本構想時のアンケートやワークショップを踏まえて、基本計画案作成段階でワークショップを開催し、市民、利用者、団体等多世代の意見によりニーズを抽出します。
- 様々なニーズに対して、専門家の立場で検討し計画案に反映していきます。
- 基本設計案がまとまった段階で市ホームページを通じて案を提示し、さらに意見を募り、パブリックコメントの実施を支援します。

1.和歌山市内及び県内主要文化施設の利用状況調査と分析
既存施設の利用状況を調査
期待されている役割の明確化
新しい市民会館が担う役割の検討

2. 和歌山市民会館利用者ヒアリングの実施
グループヒアリングの実施
新しい市民会館への期待の明確化
文化協会団体、定期利用団体、教育関係利用団体
集会・大会利用団体、プロモーター団体など

3. 市民ワークショップ（WS）の実施
基本計画策定段階で実施（３～４回程度）
テーマ　①期待される目的・使命検討
②期待される事業・活動
③管理運営システムの検討
④市民参加の可能性

4. 市民文化意識調査の実施（市と協力し実施）
和歌山市民1200~1500人程度を住民台帳から無作為抽出文化に対する意識調査（回収700～800サンプル想定）
これまで和歌山市民会館を利用されてこなかった市民がなぜ利用されないのかという原因も明確化が可能

図5-2;基本計画における市民ニーズの把握方法

❶ポスターとチラシのイメージ：WSの告知や報告の際は誰にでもわかりやすい資料を作成します。

❷寸劇によるデザインゲーム：利用者になりきるロールプレイングで計画の課題を明確にします。

❸グループワーク：様々な世代がひとつの課題に取り組むことで多角的な視点を取り入れます。

❹GW（※）の発表：みんなの意見をもとにみんなで議論できる発表の機会を作ります。

❺市民によるGWの成果：一日の成果はファシリテーターがとりまとめ、全員で意識の共有を図ります。

❻提案とりまとめ：みんなで考えた計画の実現に向けた夢の計画案を作成します。

（※）GW=グループワーク

図5-3;市民ワークショップのイメージ

安定した収支計画と運営コストの低減

長期にわたる施設運営のための収支計画

- 長期に渡って継続して安定したサービスを提供するためにはコスト削減だけでなく、収入を確保してバランスのよい収支計画を組み立てることが重要です。
- 自主事業による入場料収入、貸館による利用料金収入、テナント収入、ネーミングライツや助成金・協賛金の獲得等、収入側の可能性を拡げ、支出を抑える計画を支援します。

集客・収入力のアップやサポーターの獲得へ

- 市民会館の利用者を増やし、固定ファン層の拡大を図るため、「友の会」設立についてワークショップで議論します。
- 市民フェスや情報誌の作成等、市民会館の運営をサポートする組織の設立についてワークショップで議論します。

施設の特性を踏まえた省ランニングコスト設備計画

- 各施設の利用状況に合せた適切な熱源や設備システムの構築、汎用性が高く有資格者の不要な高効率設備の採用により、利便性の向上と管理運営費の削減を図ります。
- 長時間使用する共用部、短時間しか使わない客席や随時使用するスタジオ・会議室等を細かく整理し、簡単でフレキシブルに制御可能な空調方式や照明方式を計画し光熱水費を低減します。

民間活用を含めた管理運営手法について

PPP方式を含めた管理運営方針の検討

- 魅力的な事業を企画・実施し、質の高いサービスを実施していくために、管理運営主体について民間を活用していくことも考慮する必要があります。
- 市民会館等の管理運営については多くの施設で指定管理者制度が導入されています。また、PFI方式を採用したホール建設事業の事例も増えてきていることから、PPP方式を含めた管理運営方針の検討支援をおこないます。

施設管理と技術者育成

- 現在の市民会館の自主事業等を熟知したスタッフは市の貴重な人材であり、又、市内の技術者の育成は重要な課題です。基本計画、基本設計を通じて、関わっていただくことで人材の確保と育成につなげていきたいと考えます。

民間活力の導入可能性

- 民間活力の導入にあたってはインセンティブ、採算性のため自由度の高い民間提案施設のスペースや諸条件が必要となります。又、新市民会館の施設内容との調和は重要な課題です。
- 民間活力導入について、事業手法の比較検討をおこなった上で、基本計画の段階で計画案をベースに民間事業者にヒアリングをおこない可能性を検討します。

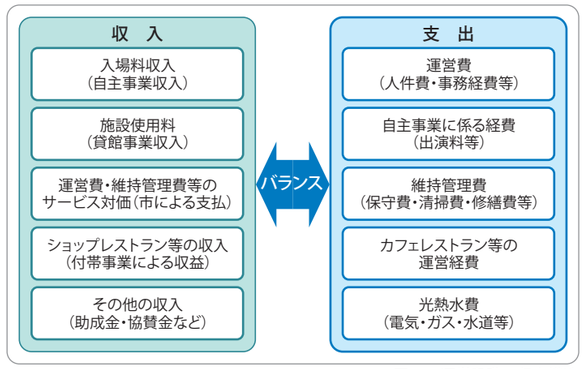


図5-4;運営段階の収支構造

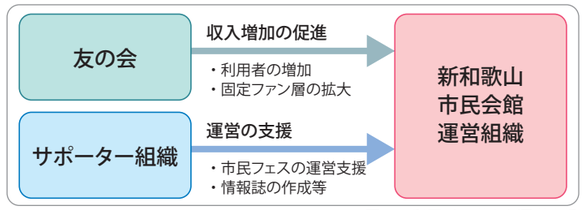


図5-5;利用者の増大と運営支援

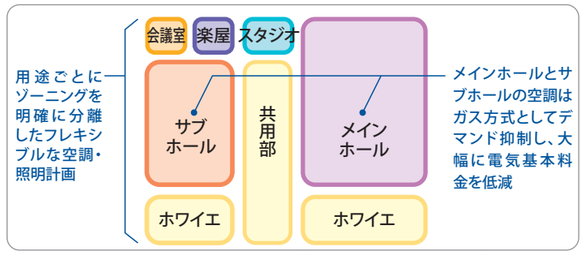


図5-6;ランニングコスト・運営コスト低減

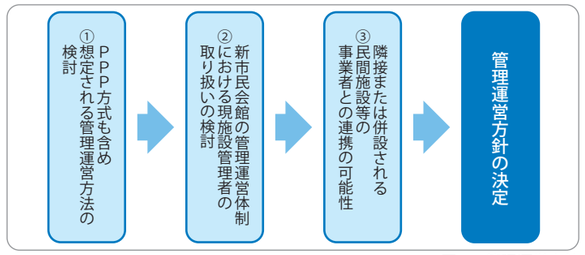


図5-7;管理運営方針

項目	従来方式	公設民営方式	DB方式	DBO方式	PFI方式
設計	公共	公共	民間	民間	民間
建設	公共	公共	民間	民間	民間
維持管理	公共	民間	公共	民間	民間
運営	公共	民間	公共	民間	民間
資金調達	公共	公共	公共	公共	民間
民活導入によるサービス水準の向上	—	民間による創意工夫に期待	—	民間による創意工夫に期待	民間による創意工夫に期待
財政負担に対するメリット	—	指定管理者制度へ採用による管理運営費の削減	設計・施工で民間ノウハウによる建設コストの削減	公設民営とDB方式の組み合わせ	民間資金活用による財政支出の平準化

図5-8;事業手法の比較